

小学校における取組

小学校においては、特別支援教育の理解や組織的な取組は着実に進められてきている一方、「個に応じるためのアセスメントの実施」、「障害の特性や認知の特性に応じた指導の工夫」、「個に応じるための教材・教具の具体的な工夫」など、通常の学級における個に応じた指導のより一層の充実が課題として挙げられている。

そこで、小学校における取組では、アセスメントから導き出された具体的な指導・支援の工夫を中心に紹介する。

1 A小学校の取組（5年生，算数科，少人数指導）

(1) 個に応じるためのアセスメント

通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童に対して、WISC - やK - ABCなどの標準化された心理検査等を実施することは容易ではない。そこで、児童の学習活動の様子から学習上のつまずきに教師が気づき、その背景を明らかにし、具体的な手だてを工夫する行動観察を中心としたアセスメントをすることとした。

ア アセスメントの方法

授業観察，ノート，テスト，ワークシート，CRT，担任への聞き取り，指導要録

イ 対象となる児童Aの実態

- (ア) 言葉を掛けたり個別に指導したりして、学習の手順が分かると一人で課題を解決することができる。
- (イ) 忘れ物が多く、持ち物の整理整とんがやや苦手である。
- (ウ) 指示されたことを忘れて、何度も聞き返すことがある。
- (エ) 用語など新しい言葉を覚えることが難しい。
- (オ) 飽きっぽく、授業に集中して取り組むことが難しい。また、注意が散漫になりがちで、長時間、課題に取り組むことが難しい。

ウ 対象となる児童Aの算数科におけるつまずきの要因の見立て

- (ア) 授業の様子や忘れ物，整理整とんの様子，指示を聞き返す様子から，注意・集中が難しいのではないかと考えた。
- (イ) 指示を何度も聞き返す様子や，辺や角，頂点などの新しい言葉を覚えることが苦手な様子から，聴覚認知が弱いのではないかと考えた。

(2) 一斉指導における配慮や手だて

ア 習熟度を加味して少人数指導の学習形態をとり，学び方が異なる児童が学習しやすいようにするとともに，必要に応じて個別指導を行う（写真1）。

イ 教室内の掲示をシンプルにしたり，机上には必要な物だけを置かせたりすることで，児童が集中しやすいようにする（写真2）。

ウ 言葉による指示はできるだけ簡潔にする。

エ 黒板を分割したり小黒板を使用するなど，児童にとって分かりやすい板書の構成にするとともに，その時に注目すべき箇所を矢印で示す（写真3）（写真4）。



写真1 必要に応じた個別の指導



写真2 机上の整理

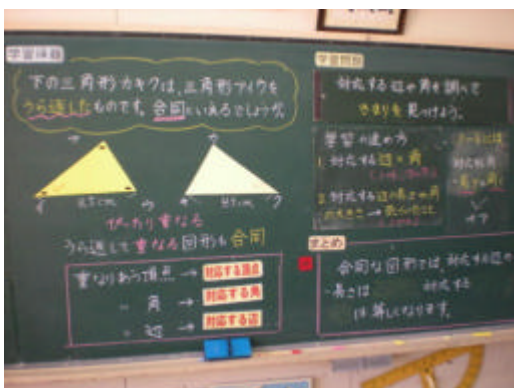


写真3 分かりやすい板書の構成

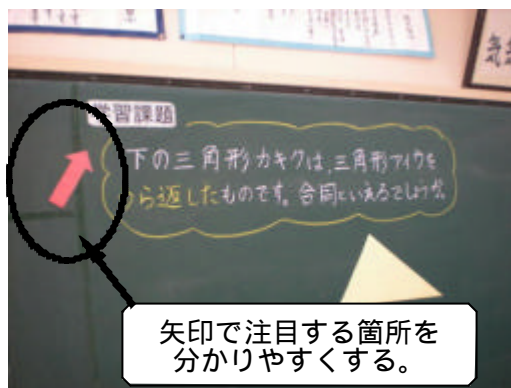


写真4 分かりやすい板書の工夫

(3) 個に対する配慮や手だて

ア 授業の流れに見通しをもたせるために、算数科の授業の進め方をパターン化したり、タイマーを使って課題に取り組む時間を分かりやすくしたりする。

イ 解決の喜びを得られるようにするために、ワークシートを用い、段階を追った課題を少しずつ与える（写真5）。

ウ 意欲を高めるために、ワークシートに児童Aが興味をもつ言葉（「ステージ」、「クリア」）を用いる（写真6）。

エ 操作したり視覚的にとらえたりして学習に取り組むことができるようするために、具体物を準備する（写真5）。【聴覚認知の弱さへの手だて】

オ 集中して学習に取り組めるようにするために、直接指導に当たる時間を確保し、名前を呼んだり肩に手を置いたりする。【注意・集中への弱さへの手だて】

カ 達成感や自己肯定感をもてるようにするために、個別に到達目標を設定したり称賛したりする。



写真5 具体物やワークシートによる学習

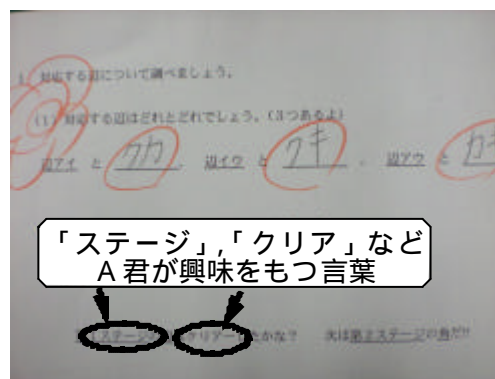
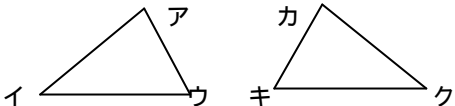


写真6 興味・関心に基づいたワークシートの工夫

(4) 指導の実際（算数科「図形の合同」）

過程	主な学習活動	指導上の留意点 〔全体への指導：○，個への指導・支援：□，評価： 〕
課題把握・解決の見通し（15分）	1 前時までの復習をする。 2 学習課題を受けとめる。 下の三角形カキクは三角形アイウをうら返しにしたものです。合同といえるでしょうか。  3 調べる方法を話し合う。 4 学習問題を立てる。 新しい用語について知る。 「うら返しても重なる図形は合同」 「対応する頂点，辺，角」 対応する辺の長さや角の大きさには，どんなきまりがあるか見つけよう。	○ 合同の意味，三角形の構成要素について問題形式にして，確認をする。 ○ 三角形を提示し，課題を視覚的にもとらえられるようにする。  新しい用語について，ノートに視写させ確認する。 二つの図形がぴったり重なることを手がかりに対応する辺の長さや角の大きさにはどんなきまりがあるか学習問題を焦点化する。
自力解決・相互解決（25分）	5 対応する辺や角を調べる。（一人調べとペア学習） - どの辺や角，頂点が対応しているのか調べる。 - 対応する辺の長さ，角の大きさについて調べる。 6 全体で調べたことを確かめ合う。（全体での確認） - 対応する辺の長さは等しい。 - 対応する角の大きさも等しい。 - 裏返しても重なる図形は合同だ。 	○ 小黒板を使い，学習の手順や時間などの学習の進め方を示し，見通しをもって自力解決ができるようにする。 ○ 必要に応じて具体物やワークシートを使うようにする。 ○ 三角形を薄い紙に写し取らせ，重ね合わせる活動を通して合同を理解させる。また，辺や角，頂点にも着目させ，それぞれがぴったり重なっていることを理解させる。 一人調べの時間に，三角形の透明シートと辺が色分けされた三角形の透明シート，児童A用のワークシートを使わせながら，直接指導する。 ○ 早く終わった児童には気付いたことを書かせる。 ワークシートの対応する辺と角の記入までを目標に取り組ませる。 ペア学習で，自分が調べたことを確かめさせ，全体での発表に向けて自信をもたせる。 対応する角の大きさや辺の長さを調べ，二つの合同の図形のきまりを理解することができる。 様子を見て，十分達成感が味わえるように児童Aが取り組めた活動を称賛する。
振り返り・まとめ（5分）	7 学習のまとめをする。 合同な図形では，対応する辺の長さは等しく，また，対応する角の大きさも等しくなります。 8 次時の学習について知る。	○ 穴あき形式にすることで，意欲をもって学習したことをまとめられるようにする。また，一人一人の解答を確認し，定着度を確認する。 ○ 次時の学習について知らせ，見通しをもたせるようにする。

2 B小学校の取組（2年生，算数科，25人一斉指導）

(1) 個に応じるためのアセスメント

2年生ということもあり，集団式の知能検査は実施していない。また，WISC - やK - A BCなどの標準化された心理検査等も実施していない。そこで，児童の学習活動の様子から学習上のつまずきに教師が気付く，その背景を明らかにし具体的な手だてを工夫する行動観察を中心としたアセスメントをすることとした。

ア アセスメントの方法

授業観察，休み時間の様子，ノート，テスト，ワークシート，保護者からの情報，指導要録，気付きのチェックリスト，アセスメントシート（試案）

イ 対象となる児童Bのアセスメント

(ア) アセスメントシート（試案）においてチェックしたつまずきの項目

領域	番号	つまずきの項目	観察場面	評価		つまずきの主な要因							
				ない	時々ある	ある	視覚認知	聴覚認知	注意	言語能力	思考力	記憶	微細運動
読む	11	新しい言葉の読みがたどたどしい。	授 業			○		●					
	12	特殊音節，片仮名部分の読みがたどたどしくなったり，読み間違ふ。				○		●		●			
	13	文章を繰り返し練習すると流ちょうに読めるが，初見では流ちょうに読めない。				○		●		●			
	14	文中の語句や行を抜かしたり，または繰り返し読んだりする。				○		●		●			
	15	勝手読みがある（「きました」を「ました」）。				○		●		●			
	16	形が似た文字を読み誤る（「め」を「ぬ」，「人」を「入」など）。				○		●		●	●		
	17	音読はできて内容も理解していないことがある。				○				●	●	●	
書く	18	板書を写すのが遅い。	授 業			○		●		●		●	●
	19	マス目の中に書けない。				○							
	20	形，細部，位置，重なり向きをとらえにくく書き誤る（「部」を「陪」，「目」を「日」，「手」を「毛」など）。	ノート テスト			○		●		●		●	●
	21	特殊音節や助詞を正しく書けない。				○							
	22	意味の誤った漢字を書く（「男」→「女」，「草」→「花」など）。				○							
	23	作文は限られた量である。決まったパターンである。筋道が通らない。内容的にとぼしい。書いているうちに主題とずれてきてしまう。	作文 日記			○				●	●	●	
	24	数量の概念の理解が難しい（数える，量の多少の判断）。	授業 テスト ノート			○							
計算する	25	10までの簡単な計算が暗算でできない。				○							
	26	繰り上がりや繰り下がりのある計算が難しい。				○		●		●	●		
	27	九九が暗唱できない。				○							
	28	乗法や除法の筆算が難しい。				○		●		●	●		
	29	解答欄を間違ったり，単位を間違ったり表記したりする。				○							
	30	学年相応の文章題を解くのが難しい。				○				●	●		

(イ) 授業場面での様子

- ・ 物をよくなくしたり，授業中に筆記用具を落としたりする。
- ・ 罫線のない紙に文字を書くと，まっすぐ書けず行が曲がったり文字が重なったりする。
- ・ 時計を正確に読むことができない。

(ウ) 児童Bの算数科におけるつまずきの背景の見立て

児童Bは，アセスメントシート（試案）の結果から，注意・集中が難しかったり，視覚認知や記憶が弱かったりするのではないかと考えた。

ウ 対象となる児童Cのアセスメント

(ア) アセスメントシート（試案）においてチェックしたつまずきの項目

領域	番号	つまずきの項目	観察場面	評価		つまずきの主な要因							
				ない	時々ある	ある	視覚認知	聴覚認知	注意	言語能力	思考力	記憶	微細運動
聞く	1	聞き間違いがある（「知った」を「行った」と聞き間違える）。	日常生活 授業			○		●	●				
	2	聞き返しが多い。				○		●	●			●	
	3	新しい言葉をなかなか覚えられない。				○		●	●				
	4	個別に言われると聞き取れるが，集団場面では聞き取れない。				○		●	●				
	5	指示の理解が難しい。				○		●	●	●	●		
読む	11	新しい言葉の読みがたどたどしい。	授 業			○							
	12	特殊音節，片仮名部分の読みがたどたどしくなったり，読み間違ふ。				○							
	13	文章を繰り返し練習すると流ちょうに読めるが，初見では流ちょうに読めない。				○							
	14	文中の語句や行を抜かしたり，または繰り返し読んだりする。				○							
	15	勝手読みがある（「きました」を「ました」）。				○		●		●			
	16	形が似た文字を読み誤る（「め」を「ぬ」，「人」を「入」など）。				○							
	17	音読はできて内容も理解していないことがある。				○							

(1) 授業場面での様子

- ・ 周りの友達の様子を見てから行動することが多い。

(ウ) 児童Cの算数科におけるつまずきの背景の見立て

児童Cは、アセスメントシート（試案）の結果から、注意・集中が難しかったり、聴覚認知や記憶が弱かったりするのでないかと考えた。

(2) 一斉指導における配慮や手だて

ア 学習の見通しをもたせるために、授業の進め方を示し掲示しておく（写真7）。

イ リズムよく九九を唱えるなどの聴覚情報を活用した手だてと、絵カードなどの視覚情報を活用した手だてをバランスよく行う（写真8）。

ウ 児童の意欲が継続するように、児童が前に出て黒板に書いたり立って活動したりする場面を作り、授業の流れにメリハリを付ける。

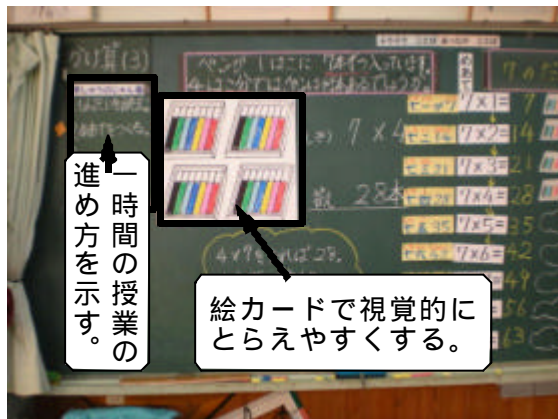


写真7 分かりやすい板書の構成

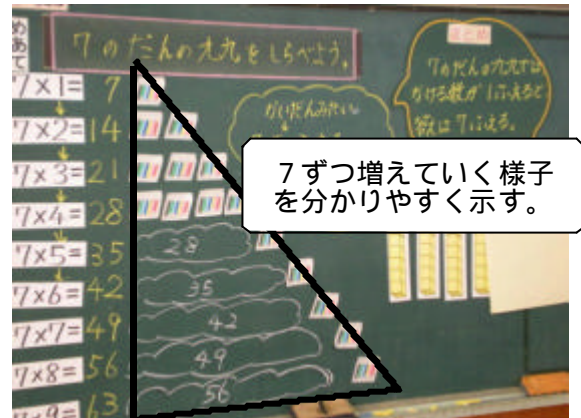


写真8 分かりやすい板書の工夫

(3) 個に対する配慮や手だて

ア 注意・集中が難しい児童には、言葉掛けで注意を促してから指示を出すようにする。

イ 視覚からの情報処理が苦手と思われる児童Bには、聴覚情報を活用した指導・支援をする。（九九を音で聞かせ、音によって覚えさせる。九九の順序性を重視し、聴覚的な手がかりを活用していく。）

ウ 聴覚からの情報処理が苦手と思われる児童Cには、具体物の提示などの視覚情報を活用した指導・支援をする（写真10～12）。（視覚的な手がかりをもとに、九九の積を求められるようにする。）

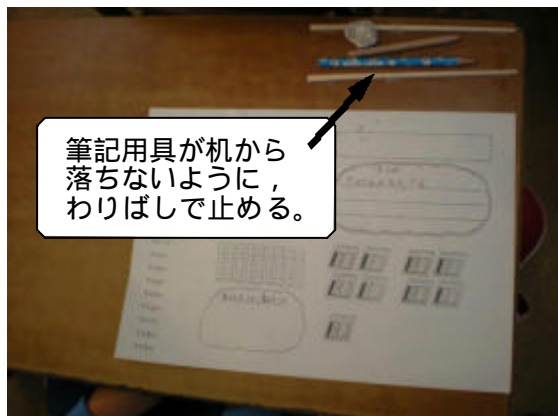


写真9 机上の整理



写真10 個に応じた教材の工夫

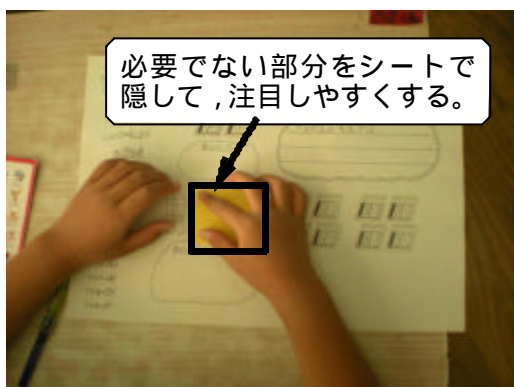


写真11 個に応じた教材の工夫

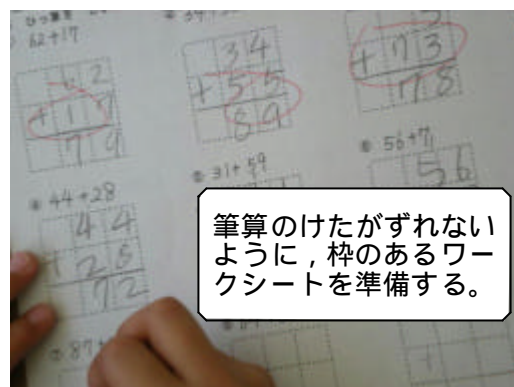


写真12 個に応じた教材の工夫

(4) 指導の実際（算数科「7の段の九九」）

過程	主な学習活動	指導上の留意点 〔全体への指導：○，個への指導・支援：□，評価： 〕																		
課題把握・解決の見通し（8分）	1 本時の学習課題をつかむ。 ペンが1はこに7本ずつ入っています。4はこ分では，ペンは何本あるでしょうか。 (1) 簡単な図で表す。 (2) 立式する。 7 × 4 (3) 答えを求める。 28本 2 めあてを確認する。 七の段の九九をつくろう。	学習の流れに沿ったワークシートを用意する。 ○ 箱に入ったペンの絵を準備する。 ○ 7本という数を確認する。 ワークシートの課題の，1つ分の数といくつ分をとらえさせ，下線を引かせる。 ワークシートをもとに，加法で求めたり，数えたりすることができるようにする。 必要な児童には，ブロックも使えるように準備しておく。 ○ 6の段の九九のの学習をもとに，めあてをつくらせる。																		
自力解決・相互解決（32分）	3 7の段の九九を構成する。 <table><tr><td>7 × 1 = 7</td><td>七が7</td></tr><tr><td>7 × 2 = 14</td><td>七二14</td></tr><tr><td>7 × 3 = 21</td><td>七三21</td></tr><tr><td>7 × 4 = 28</td><td>七四28</td></tr><tr><td>7 × 5 = 35</td><td>七五35</td></tr><tr><td>7 × 6 = 42</td><td>七六42</td></tr><tr><td>7 × 7 = 49</td><td>七七49</td></tr><tr><td>7 × 8 = 56</td><td>七八56</td></tr><tr><td>7 × 9 = 63</td><td>七九63</td></tr></table> 4 7の段の九九の呼唱を知る。	7 × 1 = 7	七が7	7 × 2 = 14	七二14	7 × 3 = 21	七三21	7 × 4 = 28	七四28	7 × 5 = 35	七五35	7 × 6 = 42	七六42	7 × 7 = 49	七七49	7 × 8 = 56	七八56	7 × 9 = 63	七九63	全体的な指示の後，児童B，Cに視線を送り注意を促してから指示を繰り返し内容をつかませる。 各自にあった様々な方法で積を求めることができるようにする。 ○ 数が大きくなるにつれ，1ずつ数える方法は，面倒であることに気付かせ，他の方法も考えられるようにする。 ○ 7をかける数だけ加える同数の累加の方法は，1つ前までの累加に7を加えることと同じであることに気付くように，1つ前の積に着目させる。 乗数の増え方と積の増え方を関係づけ，7の段の九九の構成が分かる。 ○ 本時では知らせる段階でとどめる。 4(し)と7(しち)の音が似ていることに注意させながら，九九を音で覚えさせる。（児童B） 九九表の計算式の空間的な位置関係を手がかりにして，九九を覚えやすくする。（児童C）
7 × 1 = 7	七が7																			
7 × 2 = 14	七二14																			
7 × 3 = 21	七三21																			
7 × 4 = 28	七四28																			
7 × 5 = 35	七五35																			
7 × 6 = 42	七六42																			
7 × 7 = 49	七七49																			
7 × 8 = 56	七八56																			
7 × 9 = 63	七九63																			
まとめ（5分）	5 本時の学習をまとめる。 6 次時の学習を予告をする。	○ 次時は，8の段の学習をすることを知らせる。																		